

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B)	授業コード	C172585
担当教員名	伊藤 研	科目ナンバリングコード	P31702
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	履修条件は特に設けませんが、情報の収集、情報の整理、情報の加工、情報の発信、情報発信と責任などについて興味・関心を持ち、さまざまな技術や出来事に対して常にアンテナを張っておいてください。		
受講心得	皆さんの身近な映像メディア＝テレビ、ビデオ、DVD、映画などから流される情報を、「対象」と「目的」を考えながら見る習慣を付けてください。		
教科書	使いません。		
参考文献及び指定図書	<p>情報を見せる技術 中川佳子(光文社親書106)</p> <p>分かりやすい文章の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス)</p> <p>分かりやすい表現の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス)</p> <p>分かりやすい説明の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス)</p> <p>映像制作実践講座 水城田志郎著 玄光社MOOK</p> <p>映像制作ハンドブック 玄光社MOOK</p> <p>本物の表現力をそだてる映像撮影術 玄光社MOOK</p> <p>図解<実践>映像ライティング 櫻井雅章著 玄光社MOOK</p> <p>映像編集の秘訣1 (協)日本映画・テレビ編集協会編</p> <p>映像編集の秘訣2 (協)日本映画・テレビ編集協会編</p> <p>映像編集の教科書 井上秀明著 玄光社MOOK</p> <p>一人でもできる映画の撮り方 西村雄一郎著 洋泉社</p>		
関連科目	<p>【先修科目】 情報デザイン1、情報デザイン2、映像1</p> <p>【併修科目】 映像2、プロジェクト演習1</p> <p>【後修科目】 プロジェクト演習2、プロジェクト演習3、卒業研究</p>		
授業の目的	<p>ここまで、座学と演習を組み合わせることで学んできた映像表現に関する知識や技術の1つ1つを、それぞれが果たしている映像作品の中での機能、効果などを、実践的な活動を通して検証し、理解します。</p> <p>さらに、企業および各種の地方自治体の協力と支援の下で、一般への公開を前提とした映像作品を繰り返し制作し、より高度な知識・技術の習得をめざします。</p>		
授業の概要	<p>企業あるいは各種の地方自治体など外部協力者との連携のもとで、協力者が求めている映像を制作します。教員は進行状況や作業内容をチェックし、必要に応じて具体的な指導を行いません。</p> <p>以下の流れにしたがって、一般への公開を前提とした映像作品を制作します。</p> <p>これらのうち、(01)、(02)、(03)、(07)、(09)および(11)の6ステップは、外部協力者のご指示やご意見をいただきながら進めます。これらのステップを通して、公開を前提とした映像作品を作ることの難しさや、情報を公開するに当たっての責任などを深く感じ、卒業制作へと気持ちをつないでほしいと考えています。</p> <p>また、(01)～(10)までのステップでは、これまでに学んだ知識や技術にさらに磨きをかけてもらいたいと考えています。</p> <p>(01)企画、資料調査 (02)シノプシス制作 (03)シナリオ制作 (04)絵コンテ制作 (05)撮影準備 (06)撮影・映像素材作成 (07)ナレーション・音声素材作成 (08)編集 (09)チェック受け (10)編集・ミックスダウン (11)納品</p>		

○授業計画		
学修内容	学修課題(予習・復習)	
第1週: ガイダンス:2週目以降の実践的な授業の進め方を説明します。 基本的には4週間ごとにチームごとに1本の映像作品を完成させます。	これまでの映像関連講義・演習の資料を熟読する。	
第2週: 第1本目作品制作第1週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第3週: 第1本目作品制作第2週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第4週: 第1本目作品制作第3週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第5週: 第1本目作品制作第4週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第6週: 第1本目作品の講評。	他チームの作品の講評。	
第7週: 第2本目作品制作第1週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第8週: 第2本目作品制作第2週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第9週: 第2本目作品制作第3週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第10週: 第2本目作品制作第4週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第11週: 第2本目作品の講評。	他チームの作品の講評。	
第12週: 第3本目作品制作第1週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第13週: 第3本目作品制作第2週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第14週: 第3本目作品制作第3週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第15週: 第3本目作品制作第4週。	進行中の作品に関する調査・準備など。	
第16週: 第3本目作品の講評。	他チームの作品の講評。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	①提示された企画について、効率的な調査を実践できる。 ②さまざまな表現方法から、題材にマッチした表現を選択することができる。
【知識・理解】	これまで学んだ企画・構成・撮影・編集が滞りなく行える。
【技能・表現・コミュニケーション】	企画意図を実現できる(想定した対象に、伝えるべき情報を伝えることができる)。
【思考・判断・創造】	企画意図を実現できる(想定した対象に、伝えるべき情報を伝えることができる)。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		25点	5点	
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	